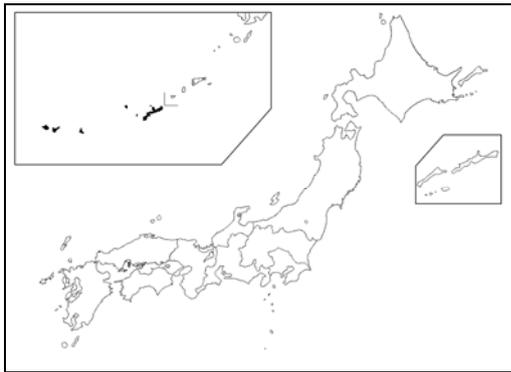


## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は増加している。
- ・ 個人消費は増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年5月)	今回(平成25年8月)	
景況判断	緩やかに回復	回復	
観光	緩やかに増加	増加	
住宅建設	大幅に増加	減少	
雇用情勢	改善の動き	改善	

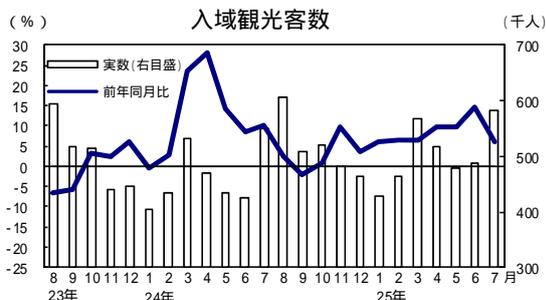
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、新石垣空港開港に伴う石垣への観光客の増加に加え、5月は円安の影響により海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしたこと、6月はLCCの関西-石垣路線が就航したことにより前年を上回った。7月は新規航空路線の就航や季節運航路線の再開により、関西方面を中心に好調に推移したため、前年を上回った。

外国客については、航空路線の拡大が続いている台湾・韓国からの空路による客数増加に加え、円安の影響などから5月、6月は前年を上回ったが、7月は昨年好調であった中国からの大型クルーズ船が寄港しなかった反動から、前年を下回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



#### 入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

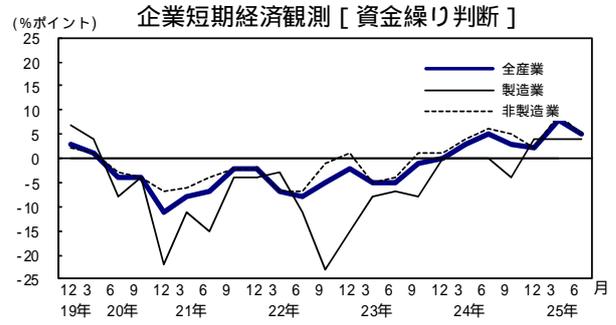
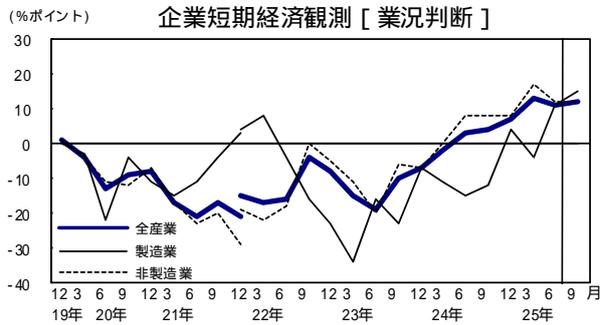
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
入域観光客数	1,466	1,462	1483.0	583.9
(前年比)	4.5	6.5	11.4	6.1
ホテル稼働率	66.5	75.8	69.7	-
(前年差)	0.7	4.5	5.4	-

(備考) 1. 入域観光客数は中総県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

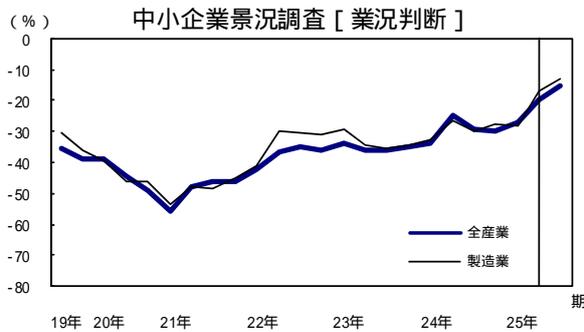
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。

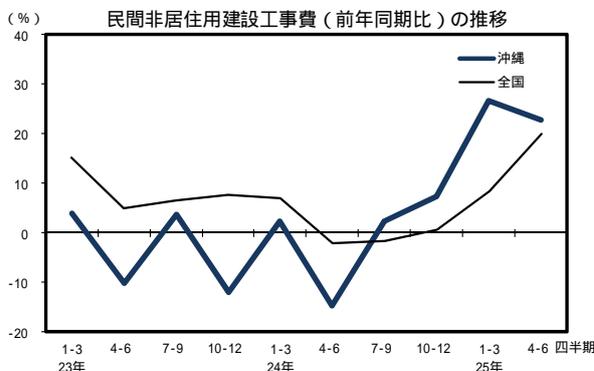
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]  
「建築物の増加に伴い付随する設備関連の輸送が増加、季節家電とエコ関連の家電の増加傾向が有り、取扱量が増加している(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度概
全産業	19.7(10.6)	17.5(22.8)
製造業	72.6(34.3)	137.3(206.3)
非製造業	14.1(7.6)	1.7( 0.2)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比2.1%減、5月は同2.3%増、6月は同1.5%増となった。

百貨店販売額、スーパー売上高

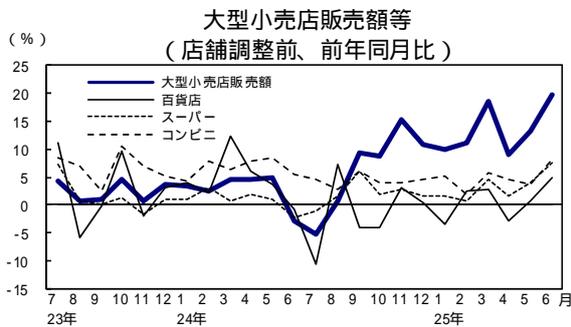
百貨店は、4月は前年に比べ気温が低かったため衣料品が減少したこと等から、前年を下回った。5月はゴールデンウィーク期間中や母の日における販売促進効果などにより衣料品が増加したこと等から、前年を上回った。6月は飲食メニューの拡充などにより食料品が増加したこと、天候要因により夏物衣料の需要が増加したこと等から、前年を上回った。

スーパーは、新規店舗の出店効果に加え、例年より梅雨明けが早く、梅雨明け後から夏物衣料や贈答用の食料品等が増加したこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、52.9となり前月に対し横ばいとなった。

「地域によっては、特に離島に関しては、観光客増の恩恵を受ける。今後も観光客の増加が続くとみられるため、全体の底上げにつながる(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答がみられた。

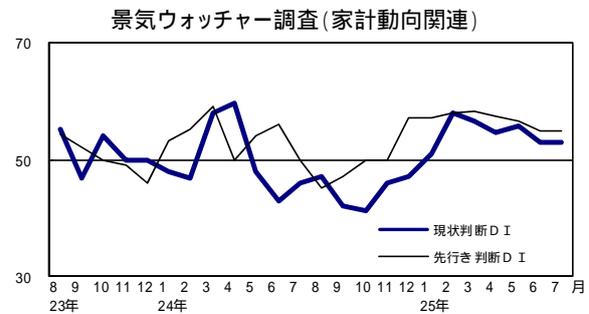
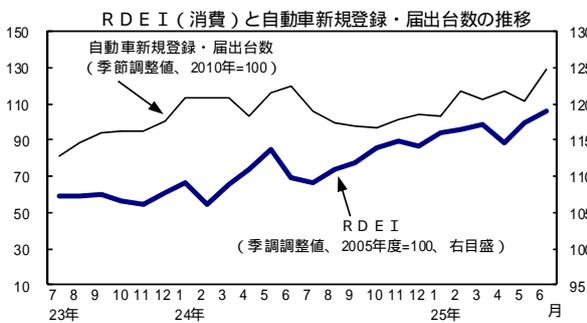


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.4	2.1	2.3	1.5
大型小売店(*2)	13.9	9.1	13.1	19.8
百貨店(*2)	0.9	2.8	0.8	4.9
スーパー(*2)	4.4	1.6	4.1	7.5
コンビニ(*2)	5.5	4.5	3.8	8.1
乗用車(*3)	7.3	12.6	2.4	10.0
(季節調整値)(*3)	7.5	4.3	4.8	16.0

(備考) 1. 季節調整済前月(月)比(%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ(店舗調整前)、百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行別荘支店調べ(百貨店以外は全店) 前年同期(月)比(%)

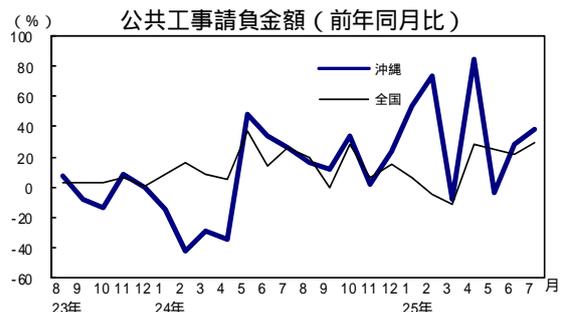
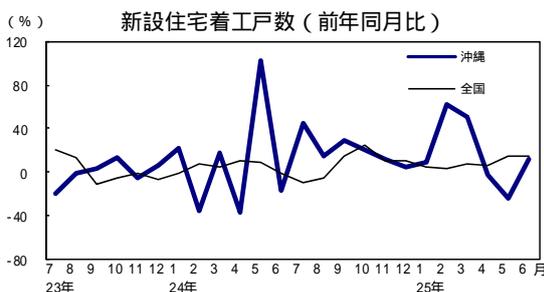
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

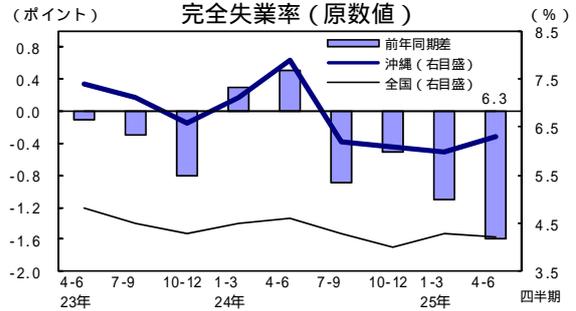
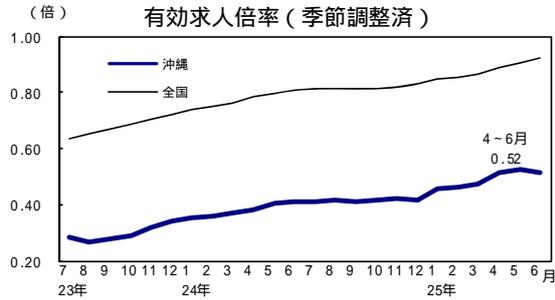


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

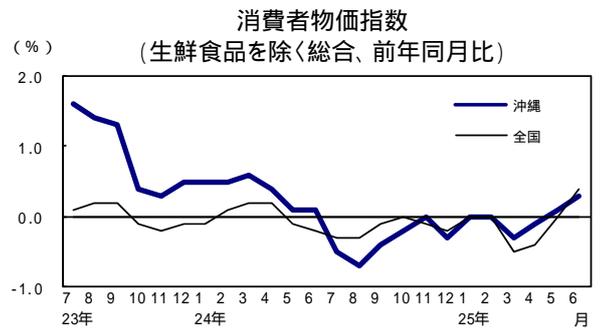
「幅広い職種から派遣の新規依頼が来ている。また既存ユーザーからも派遣人数の追加依頼があり、事業の拡大傾向のところが多々見受けられる(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	19	17	16	23	9
(前年比)	9.5	6.3	15.8	43.8	50.0
負債総額	26	23	219	52	11
(前年比)	74.8	25.2	449.6	186.2	33.6



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・今月は晴れの日が多く、来客数、売上高共に伸びている。なかでも、好調な青果、精肉がけん引した(スーパー)

<先行き>

・現状の予約受注から推測される稼働率は、前年同月実績を上回る見込みである。大型台風の発生等がなければ順調に今月より良くなると考えられる(観光型ホテル)

